

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報

3月

野菜等の作業

種まき・植え付け	栽培管理のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ(株分けも) ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリー ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<p>育苗・定植時における病害虫防除対策</p> <p>健全苗の確保は、本畑への病害虫の持ち込み防止に大変重要です 育苗時に発生する主な病害虫としては、病害では立枯性病害やウィルスなどであり、害虫ではアブラムシやアザミウマ、ハモグリバエの類があります。 防除対策としては、床土は消毒済みの培土を使用し、苗はできればハウス等の施設内で管理し、防虫ネット等でウィルスを媒介するアブラムシ類やアザミウマ類などの侵入を防ぐようにします。 また、破れたビニールや防虫ネット等は補修をしておきます。購入苗についても同様に管理し、病害虫の発生につながらないようにしましょう。</p> <p>定植後の病害虫防除も注意が必要です(主に施設野菜を中心に記載) 健全な苗を定植した後は、病害虫が多発しないよう早期発見・早期防除に努め、摘葉や摘芯の残渣は発生源になる可能性がありますので、ほ場外へ持ち出し適正に処理します。 ほ場内外の除草等を行うとともに、破れたビニールやネット等の補修を行い、害虫の侵入等を防ぎます。 また、窒素過多を避けるとともに排水や換気に注意し、病害の早期発見に努めうどんこ病や菌核病などの蔓延を防ぎましょう。 ウィルス病では、発病株の早期発見に努め、抜き取り処分をするとともに、媒介昆虫の防除を徹底しましょう。 また、ハサミや手などの洗浄も重要となりますので励行しましょう。</p>
<p>果樹の越冬病害虫の防除(黒木消毒)により発生密度を減らしましょう! 落葉果樹は寒さが厳しい冬期間は葉を落として「休眠」しています。 また、ハダニやカイガラムシ等の害虫や黒星病やうどんこ病などの病原菌も落ち葉や樹皮の表面や隙間などで越冬しており気温が高くなるにつれて活動し始めます。 そこで、樹が葉を落としている時期(黒木)に黒木消毒(石灰硫黄合剤)を行うことにより、病害虫の発生密度を減らすことができ、病害虫防除のスタートとして重要な防除とされています。 石灰硫黄合剤は、殺虫・殺菌の両作用があり、落葉果樹の広範囲な病害虫防除に適しており、越冬病害虫にも高い効果が期待できます。 使用時期については、「発芽前」が基本となりますが、作物毎の適用病害虫や希釈倍率がそれぞれ異なりますので、登録基準に従い薬害等が発生しないよう注意しましょう。 なお、注意事項として、強アルカリ性であることから次のことを厳守しましょう。 ・銅製剤・マシン油・ボルドー液などのアルカリ性の強い薬剤とは混用しない。 ・有機リン剤等、アルカリで分解しやすい薬剤とは混用しない。 ・皮膚や目に入らないよう充分注意して散布する。</p> <p>野草(山菜)の利用と食べ方 春になると様々な野草が芽吹きはじめ、「春の恵」としてナズナ、ヨモギなどが広く利用されています。 野草は、毒のあるもの以外はほとんどのものが食べられるといわれていますが、畑の土手や野原にありそうな比較的名前の知られている野草の種類と食べ方を紹介します。 ・ハコベ：踏まれていない綺麗なものを採取。天ぷらや和え物、炒め物に利用できる。揚げる場合は葉に切れ込みを入れて、葉が破裂しないようにしておくのがポイント。 ・スベリヒコ：葉ごと茎を採り重曹を入れた熱湯でゆでシュウ酸を抜く。和え物や炒め物、おひたし、汁のみなどに利用できる。クセはなく酸味とぬめりを楽しむことができるが、一度に多量に食べない。 ・カンゾウ類：扇状に開いた若芽を根元の白い部分から採取。塩ゆでし水でさらしたものをおひたしや煮物、汁のみ、天ぷらなどに利用できる。天ぷらの衣は濃い目にとくのがポイント。 他にも農家にとっては雑草と思われるものも食べられ、この時期ならではの楽しみになりそうです。</p>	



農業豆知識

小物野菜の冬期栽培・出荷への取り組み状況(2月28日現在の状況)

冬期間の野菜が少なくなってしまう時期の野菜確保のため、昨年11月から取り組んできた試験栽培の状況について、担当していただいた方の評価等中心に紹介しますので、今後の栽培計画を立案するうえで是非参考にご検討ください。

小物野菜栽培・出荷状況(依田のハウスでの状況)

品目	品種	播種トレー	播種日	定植日	収穫開始日	収穫終了日	状況 (あさつゆ担当者の感想)
シュンギク	きわめ中菜	200穴	11/1	12/21	1/30	収穫中	長く摘み取ることができる。
ハウレンソウ	サラダアカリ	"	11/15	1/5	2/16	"	アクがなくやわらかいが、茎が伸び葉は小さい。
小松菜	楽天	"	"	12/21	1/23	2/7	よく生育し育てやすい。
畑菜	白茎畑菜	"	"	"	"	2/20	やわらかく株も大きくなり良品。
水菜	京みぞれ	200穴	"	"	"	"	葉先の枯れもなくよく生育した株間を空けると大株になった。
		72穴					
チンゲンサイ		200穴	"	"	1/22	2/7	生育もよく葉物が少ない季節なのでよく売れた。
リーフレタス	ガーデンベビー	128穴	"	"	1/19	収穫中	毎日、摘み取ることができ長く収穫できる。
カブ	金町小カブ	72穴	"	2/5	2/26	2/26	定植は早目がよく育つ(今回は少し遅かったと思われる)
	本紅大丸	40穴	12/6	2/2	2/19	収穫中	早めに定植すると大きなカブになると思う。遅いとトウ立ちする。
		32穴					
あやめ雪	40穴	"	1/31	2/26	2/26	カブの色がきれいで見た目もよい	
小カブ	たかね	50穴	"	2/2	"	"	早めに定植するとカブも大きくなる。
白長二十日大根	アイシルク	200穴	"	2/30	2/12	2/24	早めの定植がよい。葉も色がよく見た目もよい。
		128穴					

[取り組み状況]

*今回は、ハウスの空き期間の都合で、12月中旬から3月中旬までの栽培となることからプラグトレーを利用しての移植栽培で行いました。

栽培ハウスは、二重被覆(外被覆+カーテン)とし、ポリフィルムの小トンネルを作り、1月中旬からは夜間保温マット(ミラマット)で保温しました。

(ミラマットや小トンネルは開け閉めしました。)

特に高温になりすぎないように管理することが重要です。

かん水は、晴天が続くときは2~3日おきに、それ以外は4~5日おきに1回かん水しました。栽培面では、元肥に20坪当たりBBN552を10kg施用しました。害虫防除としてアファーム乳剤とアドマイヤーフロアブル剤を登録のある野菜に1回散布しました。



出荷時の包装状態

[評価]

シュンギク、リーフレタスは何回かの摘み取りが可能で、継続した出荷ができます。

ハウレンソウ、小松菜、畑菜、水菜、チンゲンサイは生育も良く、良品として出荷できます。

カブ、二十日大根などは早めに植え付け(播種)できれば、大きくなり楽しみの野菜です。

栽培ハウスに余裕がある場合や、それを目的とした作型を考える場合は、もっと早くからは種や定植することにより年内からの出荷が可能となると思われます。

また、専用の育苗ハウスがある場合などは、逆に一作とった後へ定植する苗を育苗し、栽培ハウスを有効活用するという方法も考えられ、寒い地域での直売活動の弱点であった「冬期間の青物野菜の確保」に向けた一つの方法となるのではないのでしょうか。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力: 上小農業改良普及センター
地域係 中澤普及員(25-7156)